

2017年2月18日付韓国・KBS ニュース報道に対する反駁

舩杉力修（島根大学法文学部准教授）

2017年2月18日付韓国・KBS ニュース（韓国語版）において、「日本地理教科書にも…「独島は朝鮮領」という報道がなされた（<http://news.kbs.co.kr/news/view.do?ncd=3431089&ref=A>、2017年2月19日閲覧）。この報道はKBS ニュース以外の報道機関でも報道されている。

【報道内容の要約】

1870年代発刊された日本の地理教科書で、独島は日本の領土ではないと記述された部分を確認された。日本の独島侵奪の野望が露骨になるなかで、日本の主張を反駁する重要な資料になると思われる。1892年、中学校地理教科書教材として製作された「大日本地図」は、日本の領土が地域ごとに異なる色で区分されているが、いざ独島と鬱陵島には朝鮮領土である朝鮮半島と同様に何の色もない。1876年に編纂された小学校用地図でも独島、鬱陵島は色で区分された本土、隠岐島と違い、無色である。当時日本自らも独島が日本の領土ではないことを知っていたという証拠であるとしている。

シム・ジョンボ西原大学地理教育科教授は、「1905年日本が独島を強奪する前の地理教科書、地理付図には独島が朝鮮領である。このように彼らの地理教科書に忠実に記述されている」とコメントしている。

これは、17日嶺南大独島研究所が開催した春季学術大会を通じて発表されたもので、今後独島研究所は今回の学術大会研究結果をもとに、日本の独島領有権主張を論理的に対応する方針であるという。

【報道内容に対する反駁】

報道された地図のうち、1892年「大日本地図」というのは、大橋新太郎編、博文館発行、1891（明治24）年初版の『大日本地図』を指す。大橋新太郎は、出版社博文館の創業者である。初版は、国立国会図書館デジタルライブラリーで公開されている。地図は11枚、「大日本国全図」、「畿内地図」、「東海道地図」、「東山道地図」、「東山道地図」（奥羽之部）、「北陸道地図」、「山陰山陽両道地図」、「南海道地図」、「西海道地図」、「琉球諸島地図」、「北海道地図」が収録されている。このうち冒頭の「大日本国全図」に「竹島」、「松島」が記されている。

報道では、何の根拠もなく、「竹島」を鬱陵島、「松島」を独島としているが、地図に記載された島の位置を検討すると間違いであることが分かる【図1】。地図には、経緯線が引かれており、このうち、対馬の東側の経線が東経130度、周防国付近の経線が東経132度を指すとみられる。この地図において、「竹島」は東経130度線より西、「松島」は東経131度付近に記されている。現在の鬱陵島は東経130度52分、現在の竹島は東経131度52分に位置することから、この地図に記される「竹島」は現在の鬱陵島を間違えて測量したアルゴノート島、「松島」は西洋名ダジュレー島、すなわち、現在の鬱陵島を指していることが分かる。このことは日本政府が明治期に入り、近代測量法に基づき作製した地図において、「松島」は現在の鬱陵島としていることから確認することができる。すな

わち、この地図には、当時リアンコールド岩とされた現在の竹島は記されていないのである。したがって、この地図に記された「松島」が無色であったとしても、現在の鬱陵島を指しており、竹島問題とは何ら関係がないといえる。

また、報道ではこの地図帳を「中学校地理教科書教材」としているが、KBSの映像をみても地理教科書であるかどうか判然としない。当時は検定教科書の時代であったが、表紙にはそのことは記されていない。表紙には「大日本地図」、「東京 博文館蔵版」、「JAPANEZE MAP」とあるだけである。同じ博文館が1897（明治30）年に発行した『地理学教科書 中等教育 日本地図附録』は、タイトルをみると、教科書のように見えるが、冒頭の凡例には「本図は中等教育地理学教科書上巻の附属図として之を編纂したるものにして」とあるように、正確には地理教科書に付属した地図帳、すなわち、副教材として発行されたことが分かる。当時発行された地図帳の多くは、学校教材として使用されたものの、地理教科書に付属した地図帳、副教材であった。したがって、この地図帳も副教材として発行、使用されたと考えられる。副教材としての地図帳の発行には、日本政府は関与していない。いわゆる私的地図に該当するものであり、国際法上、領土問題で証拠として取り上げる価値がないといえる。

次に、1876（明治9）年に編纂された小学校用地図というのは、KBSの映像によると、表紙には「小学用地図 日本地誌略附圖」、「村上正武編輯」、「安田敬齋校訂」、「田中義廉閲」と記されている。村上正武の編輯した1885（明治18）年の『無双広益紋帳巻首古今模様集』の奥付によると、「東京府士族」、「大阪府西成郡大荘村千三百七拾五番地寄留」と出ているが、詳細は不明である。国立国会図書館東京本館には、1877（明治10）年、村上正武編、大阪の浪華三書堂発行『小学用地図』があり、これは報道に出た地図と同系統の地図であると考えられる。国立教育政策研究所教育図書館には、1886（明治19）年、村上正武編、安田敬齋校訂、田中義廉閲、大阪の前川善兵衛発行の『小学校用日本地図』があり、再版とあるので、該当の地図は明治10年代にも発行されていたことが分かる。

校訂者の安田敬齋は、安田の編輯した1877（明治10）年の『大日本国軍略表』によると、「大阪府下平民」と記している。明治初期に発行された地図を貼り込んだ、国立国会図書館東京本館所蔵の『日本地図』には、「薩摩之国全図」と「肥後国細密図」の编者として出ており、当時地図編集者として活躍していたことが分かる。校閲者の田中義廉は、明治初期の教科書編集者で、1872（明治5）年文部省に入り、翌年文部省最初の『小学読本』を編集したが、同年文部省を辞め、以後『小学日本文典』、『万国史略』などの教科書執筆に専念したとされる。田中が地図帳を校閲したのは、文部省に勤務中、そして退職後も教科書を編集していたためと考えられる。

さらに、国立教育政策研究所教育図書館には、1877（明治10）年、大野原一松編、安田敬齋校訂、大阪の中島徳兵衛・柳原喜兵衛・前川善兵衛発行の『小学用地図 万国地誌略附図』があり、鶴見大学図書館には、同じ本で、大阪の浪華三玉堂発行のものがある。すなわち、1877（明治10）年の時点で、大阪の書店から、小学用地図として、日本地誌略付図と万国地誌略付図が発行されたことが確認できる。

日本地誌略と万国地誌略とは、1874（明治7）年師範学校（後の東京師範学校、東京高等師範学校）が編集し、文部省が小学生用に最初に発行した日本地理教科書、及び世界地理教科書である。今回報道された『日本地誌略付図』とは、文部省発行の日本地理教科書

『日本地誌略』の付図にあたる。1872（明治5）年から1880（明治13）年まで、教科書は自由発行された時代であったものの、この地図帳は、上記の『大日本地図』と同様、地理教科書に付属した地図帳、すなわち副教材として発行されたものである。また当時、該当の村上正武編輯の付図に限らず、『日本地誌略』の付図は相次いで発行された。したがって、この地図帳の発行に日本政府は関与しておらず、私的地図に該当するものであり、当時の日本政府の地理的認識を示したものではない。

2017年2月15日付韓国・中央日報（韓国語版）（<http://news.joins.com/article/21263364>、2017年2月19日閲覧）によると、該当の地図は、『日本地誌略付図』の「山陰道之図」で、「隠岐島と島根県は紫色と黄色に塗られているが、独島と鬱陵島、朝鮮半島は無色である」と記している【図2】。この地図は近代的測量法に基づいて作製した地図ではなく、近世の地図に経緯線を当てはめた地図である。島根県西部の益田市付近に経線があり、「八度」としているが、これは、おおむね東経132度線を指すと考えられる。八度の西に「竹島」、東に「松島」が記されている。位置からすると、多少のズレがみられるものの、「竹島」は現在の鬱陵島、「松島」は現在の竹島であると考えられる。しかしながら、この「山陰道之図」には、そもそも朝鮮半島が記されていないので、竹島、松島が隠岐の紫色を塗らず、無色であったとしても、朝鮮領であるとはいえない。しかも地理教科書『日本地誌略』（巻三）の「隠岐国」の島嶼の説明には、「又西北ノ洋中ニ松島、竹島アリ」とあり、編者は竹島、松島を隠岐国と認識していることが確認できる。

シム・ジョンボ教授がなぜ該当の地図帳を取り上げたのかは分からないが、当時発行された、他の日本地誌略の付図をみると、銅版画家として有名で、多数の地図を編集した森琴石の編輯で、1877（明治10）年、大阪の梅原亀七出版の『小学用日本地図 日本地誌略附図』では、「山陰山陽両道之図」において、隠岐の西側に別図があり、該当の地図と同様に、「八度」の西に竹島、東に松島が出ており、両島が山陰道であることを明確に記している。また、金沢の地図製作者、洋学者として有名な大屋愷あつ編製で、1877（明治10）年の『日本地誌略附図』は各国ごとに地図が掲載されており、隠岐国の地図に、位置は不正確であるものの、竹島、松島が記され、隠岐国に属していることが読み取れる。

すなわち、該当の地図帳は、地理教科書にあらず、単に副教材、民間地図として発行されたものであり、日本政府の地理的認識を示しておらず、国際法上、必要な条件を満たしていないばかりか、地理教科書にあたる『日本地誌略』の記載内容に依拠していないこと、さらには同時代に発行された、別の日本地誌略付図では、山陰道、または隠岐国に属している地図も存在することから、該当の地図を竹島問題で取り上げる価値はないといえる。

したがって、シム・ジョンボ教授のコメント「1905年日本が独島を強奪する前の地理教科書、地理付図には独島が朝鮮領である。このように彼らの地理教科書に忠実に記述されている」というのは、完全に間違った解釈であるといえる。韓国側では、国際法上、証拠価値のない、わが国の私的地図ばかりをことさら大きく取り上げ、竹島が韓国領であるとの主張を展開しているが、国際法上重要であるのはわが国の地図ではなく、朝鮮王朝、大韓帝国による竹島に対しての国家権能の表示、実効的占有の例を示すことであろう。



图1 1892年『大日本地圖』所収「大日本国全圖」

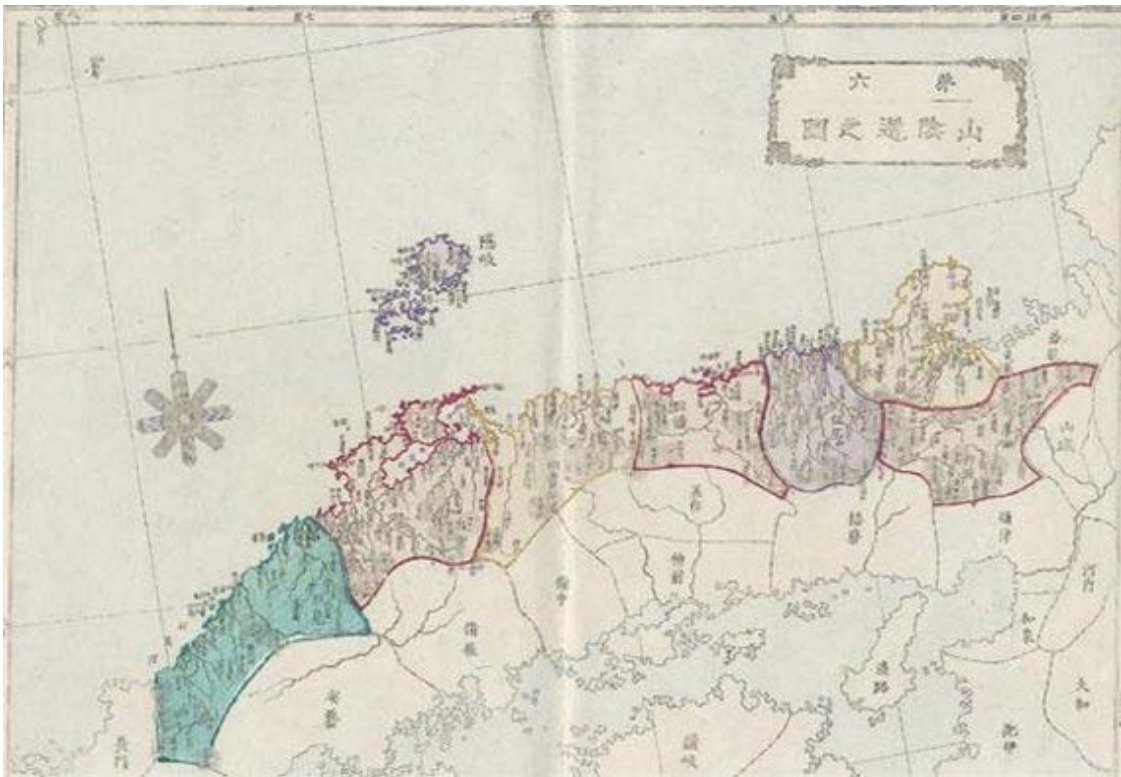


图2 1876年『日本地誌略付圖』所収「山陰道之圖」